



常磐会短期大学 教授 卜田 真一郎 さん  
IKUNO・多文化ふらっと 上林 均寿 さん



IKUNO・多文化ふらっとは2019年6月に任意団体として発足し、大阪市生野区において市民主導の多文化共生のまちづくりをめざすプラットホームのような団体です。長年、生野区で地域活動を担ってきた実践者と、この地で研究のきっかけやかかわりを持ち続けてきた研究者などが集まって「いくのコーライズパーク（通称いくのパーク）」を運営しています。そのなかの一人として、運営されている上林均寿さんに「いくのパーク」の紹介をしていただきました。それにかかわって、卜田さんには、「多文化共生」についてお話しいただきました。

多文化共生保育について考えるとき、「多文化＝外国人」と捉えた場合には、外国人の子どもを中核とした保育と考えることがあります。しかし、性別・年代・性的志向・宗教・民族・障がいの有無などがちがえば「文化」は異なります。「多文化＝人々がもっている様々なちがい」と捉え、「ちがいを豊かさに」を大事にしなが、多文化共生保育を進めていくことが求められています。（卜田さんの話より）

### いくのコーライズパークの紹介

- コー(CO): 「ともに」生きていくこと
- ライズ(LIVES): 尊厳を持つ「人」であること
- パーク(PARK)開かれた「場所」であること

DO-YA (どおや)



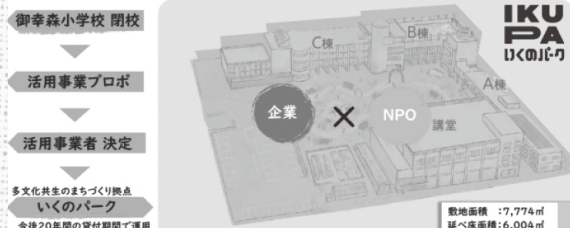
多目的室 こども食堂

ふくろうの森



図書室 まちの図書室

### いくのコーライズパーク (通称: いくのパーク)



ぐるぐる



農園 市民農園

てんこもり



子ども第三の居場所

教室 子どもの学習支援

### 大切にしていること

- 自分のことは自分で決める
- 子どもの学び続ける力を信じる
- 認め・認められる場を作る

「いくのパーク」では、NPO・学校・生野区役所・地域・企業・大学がボランティアさんと連携して多文化共生のまちづくりをしています。

### 《参加者の声》

- 多文化共生という言葉を知ると、外国にルーツのある子どものための保育だと、思っているところがありました。卜田先生がいつも話をされていた保育園はいろいろな友だちや保育士、保護者がいて多様な場であること、多様ななかで過ごすことの意味をとて興味深く聞くことができました。多様だからこそ職員集団のなかでこれは大切だと伝え合い、締めつけるのではなく前向きになるようにしていくことを、考えて実践していきたいと思いました。
- 多文化ふらっとの活動を維持していくために大切なこととして、意識していることや大切にしていることを紙に書いて、ボランティアやスタッフ全員で共有していると聞き、それは保育現場でもとても重要なことだと感じました。保育者一人ひとりによって、保育のなかで大切にしていることはちがうこともあるかもしれませんが、園全体のなかで大切にしていることは共通で意識する必要があります。実際、それは会議や記録のなかで毎年確認しています。確認するなかで、今の子どもたちや園の様子に合っているか、よりよい保育をするために改善すべきところがあるかをふり返っています。そのことは、今後も一人ひとりがどのような理由で何を大切にしているのかを確認し考え続けていくために必要なことだと改めて感じました。